

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 日本語日本文学専攻 修士課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

日本語日本文学専攻では、専攻の設ける、日本の言語・文学・言語教育に関する授業科目（ただし、外国の言語・文学・言語教育との対照に関する授業科目を含む）、および修士論文作成のための授業科目を履修し、授業内外の活動を通して自身の知見と体験を豊かにし、修了時に次のような学識・態度・能力を身につけることを期待します。

1. 日本の言語・文学・言語教育に深く関連する時代背景や、社会・文化の特性も含めた、それぞれの分野の体系的な専門知識。さらに分野間を横断することで得られる発展的な知見。また、そのような知識・知見を有した上で、生涯にわたり、理知的に社会と向き合い、主体的に問題を探求し続ける姿勢。
2. 専門的に研究を遂行するために必要な態度、能力および技術。すなわち、人権に配慮し、先行研究を尊重する高い倫理観と、自身を取り巻く研究状況を踏まえて有意義な課題を発見する探究心。また、課題を適切に具体化し、先入観に拘束されない柔軟で論理的な思考によって考察を進め、推論の妥当性を判断し、独自の研究成果を的確に言語化して発信する能力。および、必要な資料を探索・収集して正確に読解し、修得した専門知識を活用して分析する高度な研究技術。
3. 複雑にグローバル化する社会の中で、その一員としての自覚を強く持ち、同じ価値観を共有する人だけでなく、自身と異なる価値観や文化的背景を持つ人に対しても敬意を払い、協働する態度。また、社会の課題を他人事ではなく、自分のこととして受け止め、修得した専門知識と蓄積した経験を活かして、改善・解決に積極的に貢献する力。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 日本語日本文学専攻 修士課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

日本語日本文学専攻では、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づいて、日本の言語・文学・言語教育の各分野に関する高度な専門知識を修得し、当該分野における標準的な研究の方法と技術を身につけ、研究成果の集大成として修士論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成します。

1. 日本の言語・文学・言語教育に関する高度な専門知識を修得するためのコースワーク科目（講義科目）と、当該分野の研究方法を身につけ研究能力を育成するためのリサーチワーク科目（演習科目）を、バランスに配慮しながら、1年目から平行して履修するように編成します。
2. コースワーク科目（講義科目）は、日本の言語・文学・言語教育の分野ごとに体系的に開講し、自分野に閉じこもらず分野間を横断して幅広い発展的な知識を得るために、複数の分野の授業を履修するように編成します。さらに、より多角的な視点が得られるように、本学大学院の他専攻が開講する授業科目、および委託聴講生制度の協定を結んだ他大学院の授業科目を一定の範囲内で履修することも認めます。
3. リサーチワーク科目（演習科目）は、修了年度内に修士論文を作成するために開講し、日本の言語・文学・言語教育の各分野の指導教員の論文指導が受けられるように編成します。自分の研究テーマに合った指導教員による授業を履修し、研究倫理を遵守すること、資料の探索と収集の方法、文献読解の技術、研究対象の選択と調査の方法、論文執筆の手順などが身につくように授業内容を設定します。
4. 修士論文は、研究成果の集大成として作成し、2年次に提出することを課します。指導体制は、自分の研究テーマの分野の指導教員の他に、隣接分野の教員が副指導教員となり、きめ細やかな複数指導体制を敷きます。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 日本語日本文学専攻 修士課程の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

日本語日本文学専攻では、カリキュラム・ポリシー（大学院教育課程の編成・実施方針）に基づく科目を受講し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示す学識・態度・能力を身につける素地があることを求め、入学者の受け入れにあたって、次のことを実施します。

1. 専門科目の記述試験を実施し、日本の言語・文学・言語教育に関して学士課程修了程度の専門知識を有していることを確認します。試験では、古典文学・近代文学・日本語学・日本語教育学の各分野の重要な事項・人物・概念などに関する問題の中から、二分野以上にわたって選択し、論述することを求めます。知識の正確さと豊かさ、複数の知識を結びつける応用力と判断力、思考の整合性と発展性、文章の的確さと読みやすさを評価します。
2. 英語の記述試験を実施し、英語の基本的な読解力と、日本語の表現力を確認します。日本の言語・文学・言語教育の研究分野でもグローバル化が進み、英語文献を読む機会が増えてきました。試験では、一般的なレベルの英語の長文を読解して、内容を正確に把握すること、また部分的に日本語訳することなどを求めます。基礎的な英語力と、日本語訳の正確さと自然さを評価します。
3. 口述試験を実施し、これまでの学修状況、今後の研究に対する計画性と意欲、社会に対する関心の持ち方を確認します。大学院修士課程入学後の研究計画書を提出してもらい、試験ではそれに基づいて、研究テーマを設定した動機と背景、研究の進め方、その過程で予想される問題点と対策案、期待される成果とその意義などについて説明を求めます。研究テーマの学術的・社会的価値、計画の現実性、研究に向き合う姿勢、回答の的確さを評価します。